

一般社団法人

千葉県言語聴覚士会ニュース



NO. 42 2013年7月28日

目 次

会長から 1	臨床こぼれ話 9
新役員紹介 2	匠の技 10
総会報告 3	ひとくちコラム 12
社会局から 4	各委員会・作業部会から 12
学術局から 6	事務局から 14
施設紹介 8		

会長から

*** 千葉県と言語聴覚士の未来を考える日々 ***

吉田 浩滋（浦安市身体障がい者福祉センター）

一般社団法人となって第2回目となる総会も皆様の協力のもと無事に終わり、多くの理事が退任され、新たな理事が承認されました。この一年間は、いろいろな意味で一般社団法人という法人格の意味を考える機会がありました。

例えば、今までは個人の名前で銀行に口座を開き、それを県士会の口座として使っておりましたが、法人格取得後は県士会の名前で口座を開設することができました。県士会の事務所として今年度から新たに契約するアパートについても、法人の登記内容を証明する書類を添え、県士会名義で貸借契約を結ぶことができました。

これも今までの理事、監事を引き受けてくださった方々の協力があったことから、大変、感謝しております。月に幾度となく理事会を開き、組織検討委員会が作った定款案をもとに、皆で赤を入れ、プロジェクターを持ち込み、案文を壁に映し出して検討を繰り返しました。しかし公証役場からは「やり直し」という返答が来るなど、要件を整えることの難しさを実感しましたが、今となっては、あの定款作りも懐かしく思い出されます。

さて、そのなかで千葉県の未来も考えないといけません。私ごとになりますが、昨年、一昨年は言語聴覚士の採用で随分と苦労をしました。言語聴覚士の募集を行っても応募がないのです。待遇面に問題があることも事実ですが、全国に言語聴覚士の資格を持つ人間が2万人しかいないということが原因のように思います。看護師の場合は学校の定員だけで6万人にもなりますが、言語聴覚士はどうみてもその数には及びません。県内から言語聴覚士の養成校が撤退して以降、県内に養成校はゼロという事態が続いています。これは千葉県の未来のためにも、県士会として打開に向け、取り組んでいかななくてはならない大きな課題の一つです。

更に今後、都市部では高齢化がものすごい速さで進みます。この高齢者の中核となる団塊の世代の多くは都市部に暮らすので、千葉県の人口の約半分が暮らす東葛地区は高齢化率がどんどん上がることが予測

されます。そこでは医療や福祉のニーズが高まり、多くの資源が必要になってきます。その状態に対し、「私たちは何ができるのか？」そんなことを考える日々です。その答えの一つに関係者のネットワークがあります。これは平時もそうですが、災害時にも重要です。最近、船橋市では医療、福祉のネットワークが作られました。これは良いモデルになると思いますし、県士会からも企画委員を出しております。このように私たちの周りでは、日々さまざまな取り組みがなされています。

更に今年は、県士会のキャラクター『CAST-5』が誕生したり、「言語聴覚の日」を千葉で開催したりなどイベントが盛り沢山です。会員みんなで知恵を出し合い、千葉県の未来と一緒に考えていきましょう。

新役員紹介

平成 25 年 5 月 19 日(日)に開催されました第 2 回総会において、皆さまから承認されました新しい役員の方々を紹介します。

【副会長】岩本 明子(千葉労災病院): 社会局 広報部・地域連携部

社会局の広報部と地域連携部を担当することになりました。ホームページや県内諸団体との連携を通して、会員同士、そして他職種や地域との繋がりが、広く太く強く深くなるよう努めていきたいと考えています。2年間どうぞよろしくお願いいたします。

【副会長】酒井 譲 (順天堂大学医学部附属浦安病院): 学術局

この度、学術局を担当させていただくこととなりました。会員の皆様にとって役に立つような研修会の企画・運営に取り組んで参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

【副会長】古川 大輔(君津中央病院): 事務局 編集部

事務局の編集部で、ニュースの編集、発行を担当いたします。少しでも多くの会員の皆様に読んでいただけるニュースを企画していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【理事】木村 佐知子(松戸神経内科): 学術局

学術局と介護保険委員会を担当いたします。学術局ではより充実した研修会の企画運営を、介護保険委員会では今後のネットワーク作り等を目指して、会員の皆様のお役に立つよう微力ながら努めたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

【理事】鈴木 直哉(船橋二和病院): 事務局 財務部

高次脳機能障害委員会と認知症専門職研修モデル事業委員会を担当させていただきます。まだまだ新米ですが、県士会のさらなる発展のため、力を尽くしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【理事】宮下 恵子(千葉県立千葉聾学校): 事務局 総務部

総務部を担当します。新しくなった事務所とともに、気持ちを新たに、皆様のお役に立てるよう、微力ながら邁進してまいります。また、教育の視点からの活動も心がけていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【理事】渡邊 裕貴(印西市立子ども発達センター): 社会局 渉外部

社会局渉外部と小児言語委員会を担当させていただきます。渉外部は千葉県内外の関連諸機関との窓口ですので、言語聴覚士の活動の場が広げられるように努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

第2回一般社団法人千葉県言語聴覚士会総会の報告

2013年5月19日(日)、第2回一般社団法人千葉県言語聴覚士会定時総会が開催されました。会員の皆様のご協力により、議事を円滑に進めることができました。ご協力に感謝いたしますとともに、総会の概要をご報告いたします。

日時：平成25年5月19日(日曜日) 13時00分～13時45分

場所：千葉大学医学部附属病院 第3講堂

議長：勝又 綾子(緑が丘訪問看護ステーション)

副議長：那須 道子(八千代市ことばと発達センター)

書記：原田 恵里 吉田 真樹子(船橋市立リハビリテーション病院)

会員数及び出席者数：議決権のある会員総数335名

出席会員数175名(当日出席33名、議長委任141名、吉田浩滋氏委任1名)

・協議事項

1. 第1号議事 平成24年度活動報告に関する件
2. 第2号議事 平成24年度決算報告に関する件
3. 第3号議事 平成24年度監査報告に関する件
4. 第4号議事 新役員の承認に関する件
5. 第5号議事 平成25年度活動計画案に関する件
6. 第6号議事 平成25年度予算に関する件

以上の件が提出され、賛成多数により承認されました。

・報告事項

- ・マスコットキャラクターに関する件
- ・規則に関する件

以上の件が報告されました。

(総務部 宮下 恵子)



社会局から

第4回訪問リハ・地域リーダー会議に出席して

訪問リハビリ実務者研修会実行委員会 小野 幸男

平成25年5月16日・17日、お台場のタイム24ビルにて『第4回訪問リハ・地域リーダー会議』が開催され、訪問リハビリ実務者研修会実行委員会の小野が千葉県理学療法士会、千葉県作業療法士会の各代表と共に、千葉県言語聴覚士会（以下、県士会）の代表として参加して参りました。

1日目は、日本理学療法士協会の半田会長、日本作業療法士協会の中村会長、日本言語聴覚士協会の深浦会長から、リハビリに関する最近の動向や問題提起を踏まえたあいさつから始まりました。そして、第1部は「訪問リハビリテーション振興委員会及び各協会の活動報告」、第2部は「実務者研修会の報告と今後の方向性」、第3部は「復興特区 浜通り訪問リハビリステーションの現状と未来に向けて」というテーマで各講義が行われました。

講義はそれぞれに興味深い内容でしたが、特に、第3部では、「浜通り訪問リハビリステーション」の管理者である安部氏の特別講演があり、その中で、医療・介護の各保険に従事するスタッフの人材不足や訪問先の多くが仮設や借り上げの住宅であることなど、福島県南相馬市の現状をわかりやすくお話頂きました。そしてこのご講義を通して、被災地でのリハビリの役割について改めて考える機会となりました。

2日目は、第4部「本年度実務者研修会必須内容提示」の講義があり、本年度の訪問リハビリ実務者研修会の実施要件となった「関連職種との合同研修会」「フィジカルアセスメント研修」に関して具体的な内容の提示を頂きました。

「関連職種との合同研修会」では、ケアマネージャーやヘルパーなどの関連職種と共に研修会を開催して行くことが示されました。そして、「フィジカルアセスメント研修」では、東京都リハビリテーション病院地域リハビリテーション科科長の堀田氏より、リスク管理や緊急対応に関して各々が確実に判断や報告をできる力を持つことの重要さが報告されました。高齢化が進み、在宅療養者が増加していく現状では、訪問リハビリでもリスクの高い利用者様に対応する場面が多くなることが予想されます。十分な知識や技術を身につけて緊急時対応が出来ることや、関連職種との密な連携によって利用者様に迅速に対応することが、必然になっていくものと考えられます。今後の実務者研修会に於いては、それらを反映した内容にしていく必要性を強く感じました。

3 協会では、訪問リハビリステーション設立に向けて積極的に行動を起こしています。千葉県もこの流れに乗り遅れることの無いように、今回の会議で得たものを実務者研修会実行委員会の活動に活かし、訪問リハビリ実務者研修会がより有意義なものになるように努めてまいりたいと思います。今回はこのような貴重な機会をいただき有難うございました。



私たち、CAST-5(キャスティーファイブ)です！

本会ホームページ上で『マスコットキャラクターについて』のパブリックコメントを募集しておりましたが、平成25年5月19日に行われた総会で、マスコットキャラクターと後藤多可志氏考案によるキャラクター名が決まりました。そこで今回は、キャスティーファイブの名付け親である後藤多可志氏に、命名の経緯などをお話頂きました。

目白大学 保健医療学部 言語聴覚学科 後藤 多可志

私は、目白大学 保健医療学部 言語聴覚学科(岩槻キャンパス・埼玉県さいたま市)に所属し、かつ、千葉縣市川市にありますNPO法人LD/Dyslexiaセンターで週末臨床活動を行っております。これまでなんとか県士会の活動に貢献したいと思っていた矢先、同会マスコットキャラクターの名前募集の件をホームページで知りました。そこで、じゃあ、いつ県士会の活動に貢献するのか？皆様TVやラジオで聞き飽きたでしょうから書きませんが、そのような気持ちのもと、6畳一間の自宅で「こんな名前にしてみようかな」と妄想・空想が激しく交錯する中考え出したのが、今回のマスコットキャラクターの名前です。

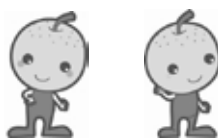
まず、チーム名はCAST-5「キャスティーファイブ」と、読みます。CASTとは、県士会の英語名(Chiba Association of Speech-Language-Hearing Therapists)の頭文字です。ファイブ、はキャラクター5体のことを指しています。そして、キャラクター名を考えました。『聞く』『話す』『読む』『書く』『食べる』など言語聴覚療法をイメージし、かつ千葉県の名産品を組み合わせでキャラクター化した、ということで、その辺が伝わるようにネーミングしました。

また、性別の縛りはつきたくなかったのですが、名前の雰囲気から落花生と玉葱には男として生きてもらうことにしました。標記は、「漢字」よりも「ひがらな」の方が柔らかい印象を与えてよいと思います(しかしながら、漢字が与えるイメージも捨てがたいので、両方あった方がよいかなと思われそうです)。

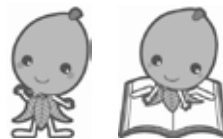
リーダーは菜乃花 語(なのはな かたる)ちゃんとし、「私たち、CAST-5(キャスティーファイブ)です！」という感じでいきたいと思っております。今回、私が考えた名前が採用され、早くも「千葉県言語聴覚士会の活動に貢献する事が出来た！」と感慨深い思いです。どうぞ、みなさま「キャスティーファイブ」を末永くご愛顧のほど、お願い申し上げます。



菜乃花 語(なのはな かたる)
チームリーダー



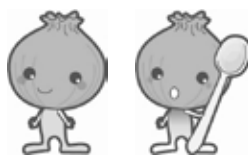
梨 聞恵(なし きくえ)



枇杷 読美(びわ よみ)



落花生 書太郎(らっかせい かきたろう)



玉葱 食男(たまねぎ はむお)

CAST-5は、これから本会の広報活動等、様々な場面で活用していく方針です。どうぞ宜しくお願いいたします。

学術局から

学術局 木村 佐知子、酒井 譲

1. 平成25年度第2回研修会のお知らせ

例年、第2回研修会は本会会員や委員会活動の発表の場となっています。今年度は、言語聴覚士として海外青年協力隊で活動され、現在は、日本言語聴覚士協会国際部でご活躍の大塚天貴先生にご講演いただきます。また、介護保険委員会、小児言語障害委員会の二委員会が、企画・運営します。みなさまと一緒に学ぶ場として、ご活用いただけることを願っております。会員の皆様はもちろん、会員外の方へもお誘い合わせの上、ご参加ください。

*日時：平成25年9月8日（日） 13時00分～16時00分

*会場：東京女子医大八千代医療センター外来棟4階 大会議室または小会議室

*内容

講演 13:00～14:00 大会議室

「青年海外協力隊員の活動から学んだこと～言語聴覚士と国際協力～」

千葉西総合病院 大塚 天貴 先生

講演 14:15～16:00 大会議室

「地域における言語聴覚療法～地域で働く言語聴覚士に必要な知識～」

初台リハビリテーション病院 森田 秋子 先生

グループワーク* 13:00～16:00 小会議室

「小児言語障害に関する評価について」

*参加者は、小児言語障害を対象とする職種にあり、検査を実施できる言語聴覚士または心理士とします。

*小児については、運営の都合上、先着15名までとします。

*申し込み方法：詳しくは同封の申込書をご覧ください。

2. 第1回研修会報告

平成25年5月19日（日）に千葉大学医学部附属病院で第1回研修会を開催しました。今回は、日本大学歯学部摂食機能療法学講座の歯科医師である戸原 玄先生をお招きしてご講演いただきました。参加者は118名（会員89名、会員外29名）でした。研修会の概要と、アンケート結果の一部を紹介いたします。

研修会の概要

演題：「摂食・嚥下障害の評価と訓練の実際」

講師：日本大学歯学部摂食機能療法学講座 歯科医師

戸原 玄 先生

概要：摂食・嚥下障害の評価と訓練について、嚥下内視鏡検査（以下、VE）での評価と事例を中心にご講演いただきました。はじめに往診による初診時のVE結果として、

少量であれば経口摂取が可能であるにも関わらず、経管栄養のみで生活している、嚥下障害の心配が無い、と考えられていた人が、

実は食事形態や摂取方法の検討が必要であったなど、栄養摂取方法が適切でない症例が検出できる事をご説明頂きました。その後、在宅患者を中心に多くの事例をご紹介いただき、特に経管



栄養管理となっているケースのフォローアップ不足について、地域医療での有機的な連携の大切さや、往診で評価をすることの重要性を学ぶことができました。また摂食・嚥下訓練法の新たな知見として、「最大開口位で10秒間保持する」開口運動により、舌骨上筋群の改善がみられるという訓練方法をご紹介いただきました。そして最後に、本会会長を被検者に、VEと開口力測定器の実演を行っていただくなど、多くのことをご教授頂く大変貴重な機会となりました。

アンケート結果

研修会に参加して（回収：76名）

とても良かった 76名、普通 0名、期待していた内容と異なった 0名

具体的に：

- ・普段行っている業務と全く異なる領域であったが、実演や動画、具体例ととてもわかりやすく講演していただきよかったです。
- ・当院ではVEを取り入れておらず、嚥下造影検査（VF）を実施することがありますが、準備や実施に時間がかかるため、手軽にはできない状況です。VEでわかることの多さを改めて実感し、導入できればと思いました。また、STとしてしっかりと嚥下状態を評価し、先も見通した関わりができるよう努力していこうと思います。

今後の研修会や当会の活動について、ご意見などがありましたらお書きください。

- ・上記にあげられた領域だけでなく、STとしての法律面、人権、福祉との関わり、接遇マナーなど、どの領域でも必要になることも研修していきたい。その実施形式はどんなことでもよい。提案した内容での講演を考える時、現在までの数年間でのやり方で見ると、第2・3回ではなく、第1回で講演または第2回の時にショートレクチャー的な講演ではいかがでしょうか。
- ・Dysarthriaの詳細な評価
- ・顔面麻痺の治療方法（中枢、末梢）

学術局より<研修会を終えて>

研修会の参加者には、関東近隣だけでなく、北海道からお越しの方もいらっしゃり、この分野への関心の高さが伺えました。また、研修会後の懇親会では、新人から経験年数豊富な先生方まで多くの方にご参加いただきました。講師の戸原先生もご参加いただき、先生が開発された検査道具に実際に触れながら、活発な意見交換が行われました。また新たに会員となった方々の自己紹介に加え、ゲームなども催され、ふれあいのある会になりました。多くの皆様にご活用いただく機会となったことを嬉しく思っています。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。皆様の臨床の一助になれますよう願っております。

[研修会の症例発表者募集]

今年度の研修会での症例発表者を募集します。日頃の臨床で悩んでいる症例などがありましたら、是非ご検討ください。皆様の積極的なご参加をお待ちしています。当会ホームページにお問い合わせください。

3.「地域の勉強会」での症例検討会に参加しませんか？

会員の皆様のご協力により、各地域で勉強会が開催されています。ホームページの「小児多職種合同勉強会」、「地域勉強会」をご参照の上ご参加ください。

施設紹介

医療法人社団「輝生会」船橋市立リハビリテーション病院・・・ST 竹中 祐子

当院は、公設民営のリハビリテーション専門病院として、平成20年4月に開院した200床の病院です。脳血管疾患や頭部外傷、整形疾患の術後の方を対象に、回復期リハビリテーションサービスを365日提供しています。また、生活期の患者様には、外来や訪問、また昨年10月からは短時間通所のリハビリテーションも行っており、ST 合計35人（病棟25人、外来6人、訪問2人、教育研修担当2人）が在籍しています。

当院の特徴は二つあります。まず、多職種のチームアプローチを重視し、全専門職種を病棟配属とするチームマネジャー制がとられていることです。患者様ごとの担当スタッフ（Dr、NS、CW、PT、OT、ST、SW、CN、薬剤師）全員でカンファレンスなどを随時行ないながら取り組んでいます。

二つ目は教育体制が整っていることです。院内や部門ごと、または法人全体（他3施設）でスタッフの経験年数にあわせた研修（新採用～3年次、シニア、プリセプター、サブマネジャー研修など）を実施しています。ST 部門では、高次脳機能や嚥下機能に関する勉強会や外部講師を招いての勉強会などを行っています。また、CN と協力し嚥下食の試食会も月1回行っています。更に、教育研修担当者の訓練同席や指導、他 ST の担当患者の訓練を代行したり、他者と症例検討を行う事も日々自然に行われます。“働きながら学ぶ”ことができると共に、日々一緒に悩み喜びを分かち合える仲間がいる職場です！！

273-0866 船橋市夏見台4-26-1 047-439-1200

船橋市立医療センター・・・・・・・・・・・・・ST 新井 千絵

当院は千葉県東葛南部地域の第三次救急病院として、救急医療の中心的役割を担っており、本年で開設30周年を迎えます。現在25の診療科、一般病棟426床で治療に当たっています。リハビリテーション科はPT10名、OT4名、ST2名が在籍し、発症および手術直後の超急性期から介入し早期リハ、早期離床を実践しています。

ST 部門では主に失語症を含む高次脳機能障害、摂食嚥下障害に対する入院時のリハビリテーションを行っています。意識障害を伴っているケースが多く、訓練室での机を隔てた訓練だけでなく、ベッドサイドでダイレクトに患者さんに触れ、日々変化する症状に臨機応変に対応していくことが求められます。また、呼吸機能や摂食嚥下機能を改善させるためのストレッチやリラクゼーション等、狭義の訓練に入るためのベースとなる部分から手がけることも必要とされています。

27年前にST室が開設されてから10数年間、船橋市内には片手で足りる数の言語聴覚士しかおられませんでした。近年、数々の回復期リハビリテーション病院が近隣に設立されています。地域の多くのSTに支えられて、安心して急性期のリハビリテーションに専念できることを有り難く感じています。また、開設当初の名残として、現在も失語症友の会「船橋たんぽぽの会」の支援を続けており、失語症と共に生きる方々の生活を知る貴重な機会になっています。

臨床こぼれ話



＝ ＝ ＝ 悩める臨床家であり続けるために ＝ ＝ ＝

君津中央病院 リハビリテーション科 言語聴覚士 村西 幸代



ST になって2年を過ぎた頃、右片麻痺のある、重度混合型失語症のKさんを担当しておりました。Kさんは、喚語困難に加え、発語失行も著しく、発語を誘発する練習をしても中々発話には結びつきませんでした。そんな中、身体機能の改善は目覚ましく、入院して3カ月を過ぎた頃には、右足に装具を付け、杖をついて、病室からST室まで一人で歩いて来るようになって行きました。「なぜPTでは、どんどん良くなるのに、言葉は良くならないのだろう」と少々焦りを感じておりました。そんなある日、Kさんの担当のPTより「Kさんは、麻痺側が改善して歩けるようになるのではなく、健側と体幹を上手に使い、麻痺側をカバーして歩いているんだよ。」と、教えてもらいました。新人の私は、目から鱗の思いでした。そして「そうだ！私ももっと出来る事を探して、出来ない事をカバーするような事を考えよう！」と思いました。その後Kさんは、文字を書いたり、ジェスチャーをしたり、絵を書いたりして自分の意思を伝える練習を行いました。そして、発語こそ乏しいものの、グループ訓練においても、積極的に周囲と関わるようになっていきました。その後、私はだんだん障害の著しい機能に積極的な働きかけを行わず、むしろコミュニケーション能力を強化するような訓練を多く取り入れるようになりました。

そしてSTになって20年を経過した頃、再び目から鱗の落ちるような経験をしました。それは重度の失語症者の言語訓練についての勉強会で起こりました。私は発症から7年を経過し、今なお、さまざまな高次脳機能障害が合併する慢性期重度混合型失語のAさんを紹介しました。勉強会では、Aさんに聴覚的理解の改善を図り、家族や周囲に、Aさんとコミュニケーションを取るための指導を行ったこと、デイサービスでの生活が軌道に乗った所で終了を検討している事を報告しました。すると、30年以上STをされている大先輩に、「発話は？」と指摘されたのです。Aさんは発症から7年を経過しても、いまだに発話は「きょし～」といった残語のみであったため、実用的な発語の表出は厳しいと考えた事を告げると、その先生は、重度失語症の方でも、障害のメカニズムを丁寧に分析し、アプローチをすることで改善の得られることを教えてくださいました。正直、20年前に良い経験をしていない私は、「本当に改善は得られるのか？Aさんに変に期待されてもなぁ」と少々不安を感じました。それでも、もしAさんに発話が出るようになるのなら・・・。

始めAさんは、新しい課題に戸惑う様子を示しましたが、「声を出す練習」であることが理解出来ると表情が「ぱ」と明るくなりました。そして満願の笑みの中、試行錯誤をしながらも「あ」「お」「あお」と声を出すようになりました。

今では、名前、住所の他、今日の天気や「おあよ～（おはよう）」「い～よ」「あおなあ（さよなら）」「お～い」など限られた言葉ですが、場面に即した発話が可能となっております。

出会ったセラピストの見識によって、患者さんの障害後の人生の選択肢が左右されるといっても過言ではありません。また臨床経験を積むことで、自然と自分の臨床姿勢が固定してしまうのも事実です。しかし、今回の経験を通し、改めて、自分の価値観を押し付けない臨床家でいたいと痛感しました。



廃用症候群の方への栄養サポート

君津中央病院 薬剤科
NST 専門療法士
大木 健史

この度は、日頃より大変お世話になっている言語聴覚士の方々に向けた原稿を書かせて頂ける機会を頂き、大変嬉しく思っております。今回から3回にわたりまして、廃用症候群の方に対する栄養評価・栄養管理の考え方について少し書かせて頂きたいと思います。

ところでなぜ、薬剤師である私が栄養の話を、と思われるかもしれません。私が栄養に対して興味を持つようになったきっかけは、院内の糖尿病チームに加えて頂いたことでした。当時、私は糖尿病という病気に対し、全く興味はありませんでしたが、多くの患者さん達と話をしている中で、食事の大切さ、楽しさ、そして難しさを感じるようになりました。古くから医食同源という言葉があります。私は、食事は生きるために最も基本となる薬だと考えています。服薬指導の中でも、薬と同じように患者さんに話をしていきます。なぜなら、結局、栄養不良の状態では、肝心な治療の効果も上がらないからです。

さて、話は変わりますが、皆さまの施設ではNST(栄養サポートチーム)の活動は定着させていらっしゃるでしょうか？病気は治ったのに、栄養状態が悪くて歩けない…。そのようなことのないようにと、創設されたのがNSTです。NSTの活動が活発な施設では、言語聴覚士の方々への嚥下機能評価の依頼は必然的に多くなっていることでしょう。私は今から5年前に済生会習志野病院でNSTの臨床実地修練を受けさせて頂きましたが、その時に、指導責任者で現院長の山森秀夫先生が、病院内に言語聴覚士がいないために嚥下造影検査(VF検査)ができないことを大変残念がっていらっしやったのを覚えています。臨床栄養法のスタンダードは「できるだけ生理的(自然)で安全な経路で、できるだけ早期に健常時の栄養法に戻すこと」すなわち、できる限り経口摂取を目指すということです。そのためには、言語聴覚士による嚥下機能評価は欠かせません。

NSTの具体的な活動内容

- ① 適正な栄養管理がなされているかを確認する。
- ② 最もふさわしい栄養管理の方法を指導提案する。
- ③ 栄養管理に伴う合併症の予防の早期発見と治療をする。
- ④ 栄養管理上の疑問について討議する。
- ⑤ 治療における資材や素材の無駄を省く。
- ⑥ 早期退院や早期社会復帰を助ける。
- ⑦ スタッフの新しい知識の習得と士気の向上に努める。

臨床栄養法のスタンダード

- ・できるだけ生理的(自然)で安全な経路で
→まず経口、無理なら経管経腸、そして経静脈
- ・できるだけ早期に健常時の栄養法に戻す
→可能な限り、早期に腸管を利用(食事開始)
- ・栄養不良の早期発見と適切な栄養療法
→迅速で的確な栄養評価と栄養投与
- ・各栄養法の適応を誤って患者に苦痛を与えない
→患者にとって最も快適な栄養療法を

さらに、これまでは嚥下の評価までに留まっていた言語聴覚士さんたちが、積極的に患者さんの栄養状態を気にして頂けるようになってきたことは大変心強いです。そんな中、時に投与されている栄養量が少ないのでは、と気になることもあるかもしれません。以前から、主治医が現疾患の治療に注意を払いすぎるために、患者さんの摂取栄養量がなおざりにされていたケースはありました。分かりやすいのは、絶食にしたまま、末梢静脈からの点滴で1ヶ月近く放置されているケースなどです。元来末梢からの点滴では

十分な量の栄養は投与することはできません。浸透圧の問題で、高カロリー輸液は末梢血管から投与できないのです。それでも 1000kcal 程度まで投与することは可能なのですが、その場合は、水分の投与量も 2000ml を超えることになり、心負担もかかります。そんな時は、主治医に「先生は絶食期間をどの程度と考えられていらっしゃいますか？」と聞いてみて下さい。と同時に、廃用症候群になってしまった原因疾患、及びその疾患の改善見込みなどについて、主治医の診断を聞いて頂きたいです。医師の診断、言語聴覚士の評価、患者・家族の望み。その話し合いによって、NST も患者さんに最もふさわしい栄養投与方法を提案することができると思います。

栄養投与経路の選択

- ・嚥下可能なら経口摂取
- ・経口摂取不能なら経鼻経管栄養
- ・長期間になるなら PEG、PEJ
- ・2週間以内の絶食は末梢静脈栄養
- ・2週間以上消化吸収不能なら中心静脈栄養

基礎エネルギー消費量の簡易計算式

ストレスの程度による簡易計算式 (kcal/日)

ストレスなし : $20 \sim 25 \times W$

ストレス中等度 : $25 \sim 30 \times W$

ストレス高度 : $30 \sim 35 \times W$

[W: 体重 (kg)]

私は廃用症候群の方の 1 日の必要エネルギー量は、特に侵襲の無い状態であれば体重 $\times 25$ (kcal) 程度で良いのではないかと考えています。ただ、それだけの栄養すら摂取が困難な場合もあるでしょう。このままでよいのか？積極的に栄養を入れた方がよいのか？その最終的な判断は、私は患者本人およびその身の回りの方々に委ねられるべきだと思います。もし、すぐに結論が出せないようであれば、患者さんの消化管の働きに問題が無ければ、経鼻経管ルートからの栄養投与を行いながら、患者さんの栄養状態が多少でも改善するか待ってみても良いでしょう。廃用症候群の方は、代謝が落ちている場合もあり、積極的に栄養を入れても、体がそれをすぐには、しっかりと取り込むことができない可能性があります。その場合は、血糖値が上がってしまったり、むせなどの症状が出たりと患者さんを返って苦しめてしまうことにもなりかねません。早めの対応は大事ですが、今後のことをしっかり考えて慌てる必要はありません。

参考文献、資料

NST の進め方 (秘訣がわかる Q&A) 山中英治、岡田晋吾 共著 (照林社)



三三三 きこえに関するひとくちコラム 三三三

・・・聴覚障害委員会・・・

機能性難聴では、器質的障害がないのにオーディオグラムでは難聴を示します。機能性難聴に気づかないと、本当は必要のない補聴器を購入する事になってしまうかもしれません。

もしかして機能性難聴かも？

こんな時には機能性難聴を疑います

- ・オーディオグラムでは難聴を示すが、他覚的検査では問題がない(OAE が PASS の例では後迷路性難聴との鑑別も必要)。
- ・オーディオグラムでは両側難聴を示すが、口を隠し小声の音声のみで会話ができる。
- ・オーディオグラムで一側高度難聴を示すが陰影聴取がみられない。
- ・純音聴力検査より語音聴力検査の結果が良好である。 ...等

機能性難聴の疑いがあったら...

機能性難聴を疑ったら、診断をするために詳しい検査のできる耳鼻科へ受診するように勧めてください。機能性難聴では、ストレスや生活環境等の背景因子があり、軽い場合は耳鼻科で経過観察、精神症状が強い場合は精神科に紹介する場合があります。まずは耳鼻科医と相談してください。



小児では学校健診で指摘を受ける例も多いです。



各委員会・作業部会から



生涯学習プログラム基礎講座・専門講座作業部会

今年度も一般社団法人 日本言語聴覚士協会、生涯学習プログラム基礎講座・専門講座の千葉県版を実施いたします。昨年度同様に、基礎講座全ての6講座と千葉県独自の1講座、さらに専門講座2講座と全9講座を2日間で実施いたします。

専門講座は東京大学 先端技術研究センターの^{なかむら}賢龍先生による「ハイテク社会とコミュニケーションの変容 AACはどこに行くのか? - 」と東北文化学園大学 医療福祉学部 リハビリテーション学科の長谷川 賢一先生による「摂食・嚥下障害のアプローチにおける吸引」を午前と午後に分けて実施いたします。2講座とも今注目の分野であり、日々の臨床業務に役に立つ知識と考え企画いたしました。

認定言語聴覚士の受講資格には生涯学習プログラムの修了証が必要です。この機会に是非ご参加ください。

日 時 : 平成25年11月17日(日) ・ 11月24日(日)

会 場 : 千葉市民会館

詳しくは同封の案内状をご覧ください。当会ホームページからお申込みください。

多くの皆様の参加をお待ちしています。

(斉藤 公人)

訪問リハビリ実務者研修会実行委員会

第4回千葉県 PT/OT/ST 合同研修会 生活期リハビリテーション

(旧千葉県訪問リハビリテーション実務者研修会)開催のご案内

この度、千葉県理学療法士会、千葉県作業療法士会、千葉県言語聴覚士会では、生活期リハビリテーション研修会を開催する運びとなりましたのでご案内いたします。

昨年度までは『訪問リハビリテーション実務者研修会』として開催しておりましたが、今年度からは『千葉県 PT/OT/ST 合同研修会 生活期リハビリテーション』と改名し、装いも新たにしました。訪問リハビリテーションをはじめとした生活期リハビリテーションを実施するのに必要な基本的知識を身に付けることを目的とした【ビギナーコース】、そして、過去3回の研修にご参加いただいた方や生活期リハビリテーションの実務者向けの【アドバンスコース】を設け、初めて参加する方も、これまでの3回の研修に参加された方にも、より広く生活期のリハビリテーションについて考え、学び、仲間を作る機会となるように計画をしております。

過去3回の研修会では、県内各地から200名を超える皆様にご参加いただき、大変な盛会となりました。生活期リハビリテーションに従事している方、これから生活期リハビリテーションに関わる予定の方、生活期リハビリテーションに関心をお持ちの方、多くの皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

詳細は決定次第ホームページなどを通してお知らせいたします。

1、日時

【1日目】平成25年11月16日(土)

【2日目】平成25年11月17日(日)

2、会場

千葉県立保健医療大学 千葉市美浜区若葉 2-10-1

*幕張駅(総武線)海浜幕張駅(京葉線)京成幕張駅(京成千葉線)各駅から徒歩15分

*会場に駐車場はありません。公共機関をご利用下さい。

3、受講費 : 各県士会会員 6000 円 非会員 10000 円

*受講者の都合によるご入金後の返金はいたしかねますのでご了承ください。

*一日のみの参加でも受講料は二日受講と同様です。

4、備考

来年度の管理者養成研修会(旧管理者研修会)STEP1に受講予定の方は、千葉県訪問リハビリテーション実務者研修会(今年度より千葉県 PT/OT/ST 合同研修会生活期リハビリテーション ビギナーコース)の受講が必須となります。ご注意ください。

(小野 幸男、勝又 綾子)

事務局から



年会費納入のお願い



平成25年度分の年会費のお支払いをお願いします。本会の規則により、2年以上会費未納の場合退会とみなされますのでご注意ください。尚、退会後も未納分は徴収させていただきますので、ご了承ください。

正会員 3500円 準会員 3000円

賛助会員は、1口5000円（個人1口以上、団体2口以上をお願いします）

お支払い方法

1) ゆうちょ銀行および他の金融機関からのお振込み

ゆうちょ銀行からのお振込の場合

払込取扱票に氏名、住所、金額をご記入の上で下記宛にお振込ください

（記号番号）00120-6-39932

（加入者名）一般社団法人千葉県言語聴覚士会

ゆうちょ銀行以外の金融機関からのお振込の場合

（銀行名）ゆうちょ銀行 （金融機関コード）9900 （店番）019

（店名）〇一九（ゼロイチキュー店）

（預金種目）当座 （口座番号）0039932

（受取人名）イッパンシャダンハウジン チバケンゲンゴチョウカクシカイ

2) ゆうちょ銀行口座からの自動引落し

お手続きについては、ニュースN40号をご参照ください。

尚、今お手続きをされた場合、平成26年3月15日より自動引落が開始されます。

*平成24年9月より、年会費の振込先口座名義が「一般社団法人 千葉県言語聴覚士会」となりました。尚、口座番号はこれまでと変更はありません。「加入者名」「受取人名」欄は「一般社団法人 千葉県言語聴覚士会」または「千葉県言語聴覚士会」のどちらでご記入頂いても結構です。

年会費に関するお問合せ先

船橋二和病院 リハビリテーション科 鈴木 直哉

047-448-7111（代）

事務所が移転しました!!

このたび、本会事務所は下記に移転しました。京成みどり台駅から5分ほど歩いた閑静な住宅地にある木造アパートです。1階の洋間6畳で、窓をあけると目の前に柚子の木がひろがる、優しい景色です。書類や書籍、プリンターなどが場所をとっていますが、委員会や作業部会など、数人の集まりの場所として、ぜひご活用ください。

なお、使用にあたっては、使用規定がございます。担当理事や総務部にご連絡ください。

新事務所 所在地

〒263-0042 千葉県千葉市稲毛区黒砂2-6-15 メゾンK102

FAX: 043-243-2524 メール: chibakenshikai@zp.moo.jp

* FAX番号、メールアドレスに変更はありません。



1. 入会のお誘い

当会に入会されていない方は、ぜひご入会くださるようお願い申し上げます。入会ご希望の方は、ホームページにても入会方法をご案内申し上げておりますのでご覧ください。また、お近くに未入会の言語聴覚士の方がいらしたら、入会をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

2. 住所・勤務先変更届けについてのお願い

住所や勤務先など、入会時にされた登録内容に変更があるときは、お手数ですがなるべく速やかに、事務局まで郵便またはFAXにてご報告くださいますようお願いいたします。変更届は会のホームページよりダウンロードすることもできます。会よりの郵便物がお手元に届くのが遅れるなど不都合がございますので、ご協力をお願いいたします。

3. 新入会員のお知らせ（敬称略）

会員数：正会員347名・準会員21名・賛助会員7団体

（平成25年6月9日 理事会承認分まで）

…正会員…

堀切 翔太（船橋総合病院）

斉藤 正伸氏（介護老人保健施設クレオ）

村口 麻衣子（ぶりんぐあっぷ あすみが丘教室）

栗田 彩（新東京病院）

吉澤 翔（第2北総病院）

志賀 温子（新東京病院）

阿美 勝典（船橋市立リハビリテーション病院）

倉田 あずさ（大野中央病院）

名嘉真 圭（千葉中央メディカルセンター）

井上 明香（千葉中央メディカルセンター）

石渡 智一（君津中央病院）

柴本 千織（袖ヶ浦さつき台病院）

小林 恵（化学療法研究所附属病院）

上杉 有香（化学療法研究所附属病院）

神代 裕里恵（千葉リハビリテーションセンター）上野 真貴子（千葉リハビリテーションセンター）

喜安 朋子（千葉リハビリテーションセンター）三橋 美由紀（大野中央病院）

栗林 真理（旭神経内科リハビリテーション病院）落合 勇人（旭神経内科リハビリテーション病院）

（届出順）

理事会・委員会等報告

平成25年度 理事会

第2回

日時：2012年5月19日(日) 10時00分～12時00分 場所：千葉大学医学部附属病院 第3講堂

出席者：吉田、石橋、木下、木村知希、相楽、鈴木三樹子、古川、宮下(以上理事8名) 岩本(監事) 木村佐知子、鈴木直哉、酒井、渡邊(以上新理事4名) 宇野(新監事) 宮阪(書記)

1. 協議事項：・代表理事、会長、副会長の選出 ・各部、各局の議事録の承認について ・新入会員、退会者について ・言語聴覚の日に関する協会ニュース「ST AND UP」の顛末について ・総会について ・第2回研修会 ・事務所の移転先について ・No. 42ニュースについて ・貸借対照表の電子公告について ・リーフレットについて ・来期の副会長、社会局の分担、言語聴覚の日の担当理事について ・前理事・監事のML離脱時期について ・定款の外部発注について

2. 報告事項：・回覧郵便物一覧 ・平成25年度春期都道府県士会協議会、学校教育連携担当者連絡協議会について

第3回

日時：2013年6月9日(日) 13時00分～17時00分 場所：黒砂公民館 和室

出席者：吉田、岩本、木村、酒井、鈴木、古川、宮下、渡邊(以上理事8名) 宇野(監事) 高橋(書記)

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・事務所の移転先について ・キャラクター名称について ・船橋在宅医療ひまわりネットワークについて ・第1回研修会アンケート結果について ・委員、局員について ・リーフレットについて ・選挙管理委員会の内規について ・No. 42ニュースおよび印刷業者について ・高次脳機能障害委員会の研修会について ・認知症専門職研修モデル事業委員会の研修会について ・生涯プログラム基礎講座・専門講座の案内について ・事務所の移転通知について ・名刺について

2. 報告事項：・回覧郵便物一覧 ・第4回訪問リハ・地域リーダー会議について

平成25年度 学術局

第1回

日時：2013年5月19日(日) 17:10～17:40 場所：千葉大学医学部附属病院第1講堂

出席者：木下、木村知希、木村佐知子、酒井、荒木、家永、柄澤、神作、佐藤、竹中、山本

第1回研修会反省、昨年度反省・今年度計画案作成について、平成25年度第2回研修会案内状について、今後の予定

平成25年度 介護保険委員会

第1回

日時：2013年5月24日(金) 19時30分～22時00分 場所：サイゼリヤ船橋イト ヨーカドー店

出席者：木村佐知子、木村知希、小野、坪木、平澤、松本

・今年度の係りについて ・第2回研修会について ・調査について ・活動計画、委員会における報告等

平成25年度 「言語聴覚の日」作業部会

第1回

日時：2013年2月24日(日) 15時00分～17時00分 場所：鎌ヶ谷市総合福祉保健センター4階研修室

出席者：吉田、落合、木村、千葉言友会5名、吃音研究者2名、以上10名

・「言語聴覚の日」のタイトルについて ・内容について ・今後の報告等

第2回

日時：2013年4月28日(日) 15時00分～17時00分 場所：鎌ヶ谷市総合福祉保健センター5階作業訓練室

出席者：吉田、落合、木村、千葉言友会3名、吃音研究者1名、 以上7名

・会場担当者との打ち合わせについて ・お知らせチラシについて ・後援依頼、企画について等 ・決定事項の報告等

平成25年度 生涯学習プログラム基礎講座・専門講座作業部会

第1回

日時：2013年6月9日(日) 10時00分～11時30分 会場：千葉市療育センター 会議室

出席者：斉藤、西本、太良木、渡辺、古川

・今年度案内 開催要項の検討 ・県士会ホームページからの申し込みについて ・申し込みの受け付けについて ・役割分担について ・メーリングリストについて ・その他

平成25年度 高次脳機能障害委員会

第1回

日時：2013年5月19日(日) 17時00分～19時30分 場所：千葉大学医学部附属病院

出席者：治田、竜崎、石橋、平山、鈴木 以上5名

・今年度の委員について ・平成25年度年度計画について

第2回

日時：2013年5月28日(火) 19時30分～21時00分 場所：新八千代病院 言語聴覚療法室

出席者：治田、竜崎、平井、平山、鈴木 以上5名

・失語症研修会の会場・役割分担・タイムスケジュール・案内状について

平成25年度 組織検討委員会

第1回

日時：2013年6月2日 13時30分～15時00分 場所：マクドナルド常盤平店

出席者：吉田、平山 以上2名、 欠席2名、 オブザーバー参加1名(栗林・入会申請中)

・渉外部と地域連携部の役割について ・タブレットを使った情報共有について

(紙面の都合上、報告事項と協議事項はまとめて記載しています。)

新発売 認知症コミュニケーションスクリーニング検査 Communication Screening Test for Dementia (CSTD)

監修：飯干紀代子

14,700円

認知症者のコミュニケーション能力の全体像をスクリーニングして、支援の方向性を示します。

- ①聴覚・認知・言語・構音の4領域を包括的に評価する。
- ②検査結果からコミュニケーション障害を類型化して、支援方法の方向性を示す。
- ③付属のCD-ROMに収録されているExcelファイルに結果を入力して、A4判1枚の報告書を作成できる。
- ④4領域の得点をレーダーチャートで示すことにより、他職種や家族にわかりやすく説明できる。

「認知症コミュニケーションスクリーニング」講習会開催

日時：2013年8月10日（土）13:30～16:40

会場：東京都立産業貿易センター浜松町館 第1・2会議室

講師：飯干紀代子

検査の実施方法についての講習と、本検査の結果に基づいた認知症者への支援方法について詳しく説明します。
講習会の詳細はホームページにて公開します。

もの忘れが気になる方へ 新記憶サポート帳 著：安田清 A4変形版 200頁 1,260円

記憶サポート帳が新しくなりました。記入ページが2か月から3か月分記入可能となりました。毎日書くことで、困っていた予定のやり残しや、約束を忘れることが減ります。

言語訓練用カード ActCard[®] (アクトカード) (ActVoice[®]対応)

第3巻 動詞絵カード

失語症の言語訓練を目的とした基本的な動詞の絵カード300枚組で構成されています。

18,900円

文字版第1巻

(アクトカード第1巻に対応)
表面に漢字を含む語彙、裏面にひらがなの語彙が書かれており、文字の読みや書字訓練などにお使いいただけます。

14,700円

第1巻・2巻

(名詞カード各300枚)
好評発売中！

18,900円

多機能言語訓練装置

ActVoice[®]
(アクトボイス)

(ActCard[®]対応)

39,900円

新発売 キャリオバのための 構音(発音)絵カード

企画・監修：加藤正子 竹下圭子 A6判 523枚組 語彙リスト(冊子・CD-ROM) 手引き書 ケース 24,150円

構音(発音)指導の中でも単語の段階で正しい音を習慣化させることは重要です。子どもの場合、絵カードを呼称させる課題は復唱課題より構音指導に対する動機付けが高く、自発的な呼称は、より自然な発話の構音サンプルになります。

- 特長
- ①幼児から学童が獲得している基本単語・日常単語523枚
 - ②全ての日本語音が含まれている
 - ③難易度を考えた1～6音節

- ④[s] [k] など訓練頻度が多い語は多めに収録
- ⑤ドリル学習に便利なキャリアフリーズカードも収録
- ⑥指導音が語頭だけでなく語中・語末にある単語も簡単に採れる

お子さんに関する悩みに言語聴覚士がお答えします

ことばの障害と相談室

編：能登谷晶子

A5判 84頁 945円

お子さんが聴覚障害と言われても大丈夫ですよ

聴こえの障害と金沢方式

編：能登谷晶子

A5判 90頁 DVD付 1,680円

販売開始

- ・木や布等を使った教材・福祉玩具
- ・口腔ケア・摂食関連器具

詳細はホームページにて！

エスコアール <http://escor.co.jp>

● 価格は全て消費税込みです。 ● 上記の商品はホームページから全品送料無料でお求めいただけます。

TEL 0438-30-3090 FAX 0438-30-3091

〒292-0825 千葉県木更津市畑沢 2-36-3

リオネット補聴器

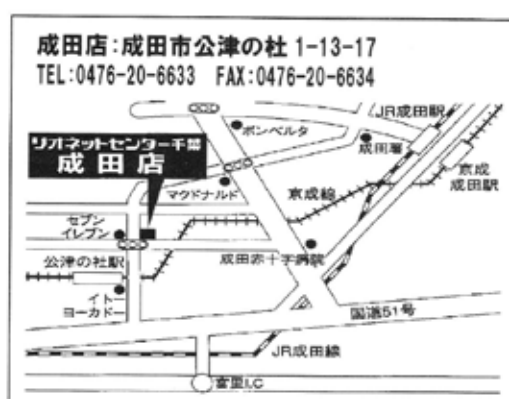
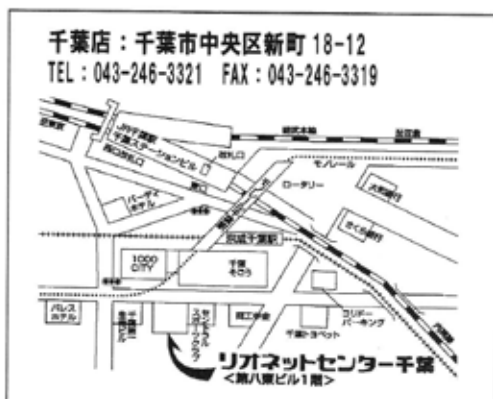
補聴器のご相談は安心できる

認定補聴器専門店で!!

認定補聴器専門店は「認定補聴器技能者」が在籍し、補聴器をお客様の耳に合わせるための設備機器が整い「補聴器の適正供給」の運用がされ「公益財団法人テクノエイド協会」が認定したお店です。つまり経験豊かで専門的な知識と技能を持ったスタッフが、様々な機器を使い、一人ひとりのお客様の聞こえの状態に合った最適な補聴器をご提供します。

認定補聴器専門店

リオネットセンター 千葉



Hello

在宅
通信販売

かむことや飲み込むことが、困難な方や
たんぱく質などを制限されている方へ
ご一報ください。

(株)富士食品 千葉県君津市坂田272

TEL：0439-52-2421

FAX：0439-53-0758

マウスピュア® シリーズ 口の機能を取り戻すために

唾液分泌
促進

清掃

保湿

口腔
マッサージ

マウスピュア®

有効成分（グリチルリチン酸二カリウム）配合
保湿成分（ヒアルロン酸Na）（α-グリセリン）配合

医薬部外品
薬用綿棒
梅田製薬

40g 希望小売価格 1,470 円



マウスピュア® シリーズ口腔ケア製品ラインナップ



吸引＋歯みがき / 吸引＋口腔清掃
「吸引歯ブラシ」「吸引スポンジ」



口腔清掃
「口腔ケアスポンジ」



アイスマッサージ
「口腔ケア綿棒」



舌リハビリ
「口腔ケアガーゼ」



舌清掃
「フレッシュメイトK」

※ 製品改良のため、仕様の一部を予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

川本産業株式会社

本社 / 大阪市中央区糸屋町2丁目4番1号

●お客様相談窓口 06-6943-8956 (10:00~17:00 月~金 ただし祝祭日を除く)

●商品に関するお問い合わせ・試用品のご要望は

マーケティング本部 06-6943-8941

<http://www.kawamoto-sangyo.co.jp>

流動食用

半固形調整食品

ペグメリン®

流動食に混ぜるだけ！
すばやく半固形状に調整できます。



2.5g×50包



500g (計量スプーンつき)

- 特長 1 流動食に混ぜるだけ！
-
- 特長 2 添加3～5分後、再びかき混ぜることで
すばやく粘度が発現します
-
- 特長 3 必要に応じて幅広く粘度調整ができます
-
- 特長 4 ベタつきが少ないので注入が容易です

●賞味期限：製造後2年間



販売者
株式会社 三和化学研究所

本社/名古屋市東区東外堀町35番地 〒461-8631
TEL (052) 951-8130 FAX (052) 950-1861

●ホームページ <http://www.skk-net.com/>

..... 求人情報

詳細は千葉県言語聴覚士会ホームページ（<http://chibakenshikai.moo.jp/>）をご覧ください。

【表の見方】 募集内容（記載がなければ言語聴覚士の募集） 業務内容、 住所、 連絡先

東京湾岸リハビリテーション病院	
	常勤 2名（経験者 新卒可）
	成人言語・認知、発声・発語、摂食・嚥下、 その他（回復期リハビリテーション）
	〒275-0026 千葉県習志野市谷津 4-1-1
	電話 047-453-9000 担当：人事課 浜村



発行所：一般社団法人 千葉県言語聴覚士会

発行人：吉田浩滋

編集人：編集部 古川大輔

事務局：〒263 - 0042 千葉市稲毛区黒砂2 - 6 - 15 メゾン K102

FAX 043 - 243 - 2524

E-mail chibakenshikai@zp.moo.jp

ホームページ：<http://chibakenshikai.moo.jp/> 会員専用パスワード：affordance

印刷：社会就労センター はばたき職業センター